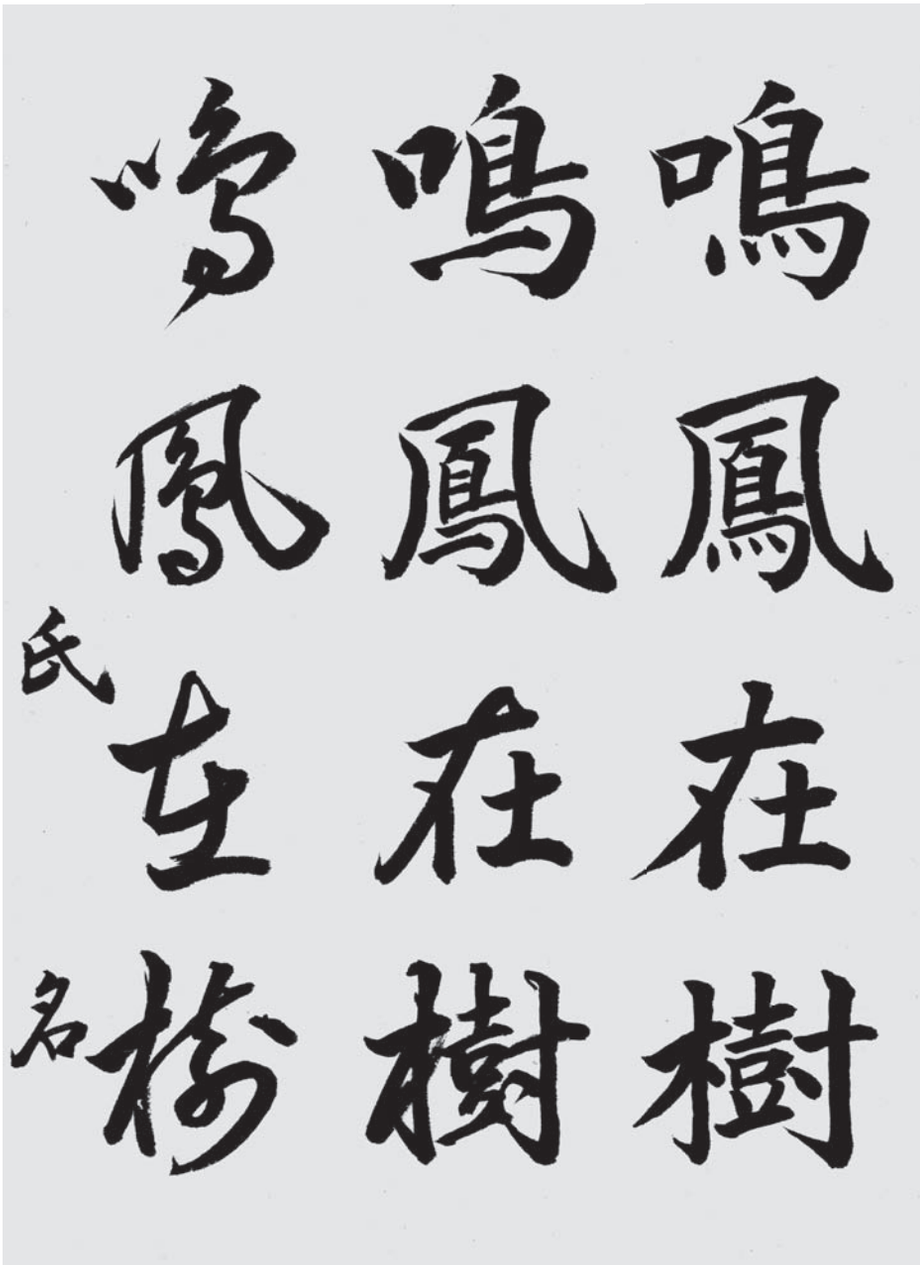
三体千字文を書く（33）

締切り　九月二十四日（必着）



奥村憲照先生書

◎作品の出し方

▼硬筆部＝B5判（二五七㎜×一八二㎜）以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。（黒色に限る）

▼毛筆部＝半紙に書いて下さい。（筆ペン可）

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼**事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績（毛筆の場合は毛筆漢字の成績）**を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六（一九八一）年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穏健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・斉家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝（在位五〇二～五四九）の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

鳴鳳在樹（メイホウザイジュ）

白駒色場（ハククショクジョウ）

鳳凰は樹の上で鳴き、

白駒は畑で草を食べる。

一般部規定課題

締切り　９月２４日（必着）

新入から１級まで

天を楽しみ
命を知る
故に憂えず

〔解　説〕

大谷清城（おおたにせいじょう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★天を…（書体＝楷書）

『易経（えききょう）』　中国・五経の一つで周易ともいう

古代より、人間社会のもろもろの現象は、天の意志の見えない糸によって支配されていると考えられてきました。それが「天命」であり「命」なのです。

「命」を自覚することにより達観とか諦念（ていねん）が生まれ「故に憂えず」という悟りの境地に近づいていくのです。

◆**10月課題予告**（行書）

よき細工は
少し鈍き刀を
使ふといふ

準初段から六段まで

直木は先ず伐られ
甘井は先ず竭く
荘子

〔解　説〕

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

◎行書は線に丸みを出してやわらかく、字形のふところは広くゆとりのある書き方を心掛けるとよい。

岡田龍芳（おかだりゅうほう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

★直木は…（書体＝行書）

『荘子（そうし）』　中国・戦国時代の道家の思想家「荘周」の著作

樹木はまっすぐで材料に適しているものから切り倒され、井戸はうまい水の出るものから、まず飲み尽くされてしまいます。人間も有能な人物ほど、他人からの攻撃を受けやすいものです。人を責めず、人からも責められない生き方がもっともよいのかもしれません。

◆**10月課題予告**（楷書）

本当に重大な機会は
人生滅多に訪れない
シラー

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

一般部かな課題

締切り　9月24日（必着）

新入から１級まで

名月や煙這ひゆく水の上（能う邊）

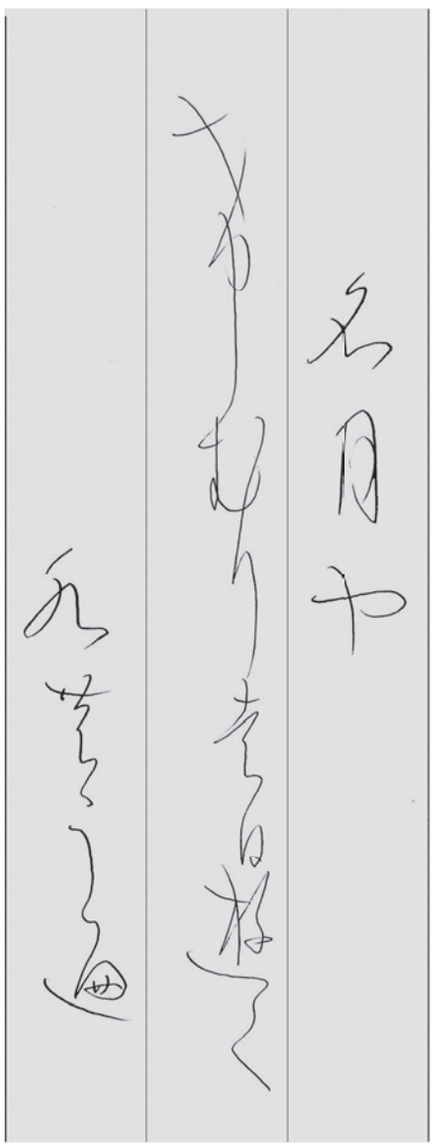
田中貴光書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

準初段から六段まで



名月や煙這ひゆく水の上（希むり者日遊農う遍）

田中貴光書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

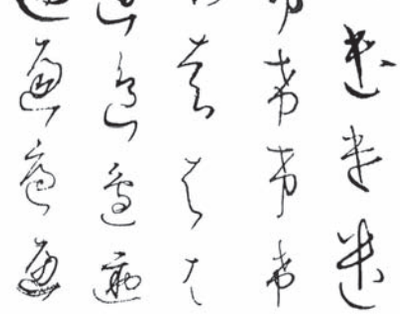
名月や煙這ひゆく水の上

（服部嵐雪）

〔句解〕空には中秋の名月が美しく照り、目の前にある池の上を白く水煙が流れていく。別世界のように美しい光景である。

〔鑑賞〕嵐雪は、松尾芭蕉に入門して、榎本其角とともに江戸蕉門の双璧であった。この句は、月光の下で、この世とは別世界にあるような水辺の夜色の美しさを描き出した佳作。

〔古筆参考〕



遣　希　者　邊　遍

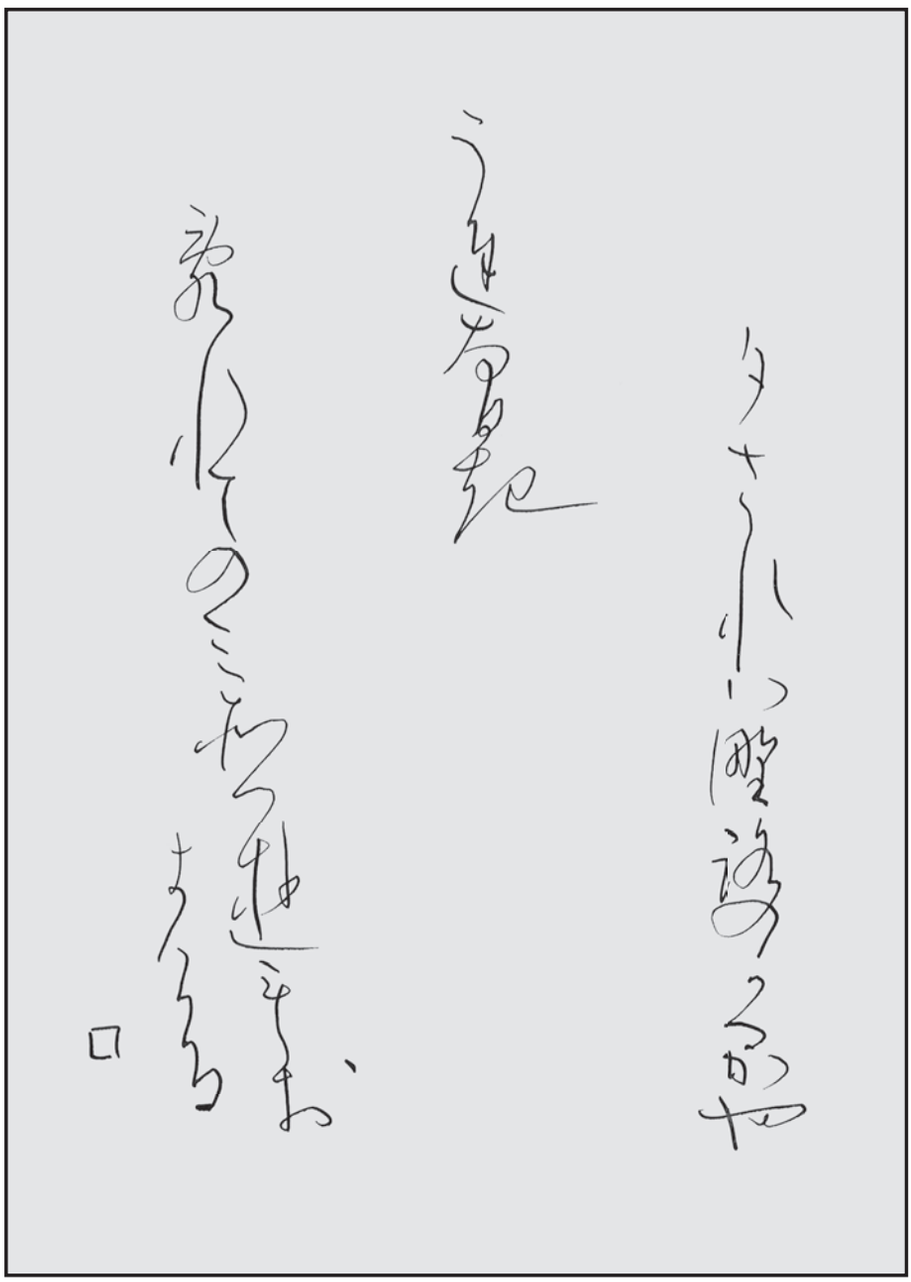
〔解説〕一句の中で、濃淡など出すように書きますが、一字の中でも太い線、細い線など使い、一本調子に書かないように心掛けます。作品に味わいが出ます。

◆**10月課題予告**

雁がねも静かに聞けばからびずや

（越智越人）

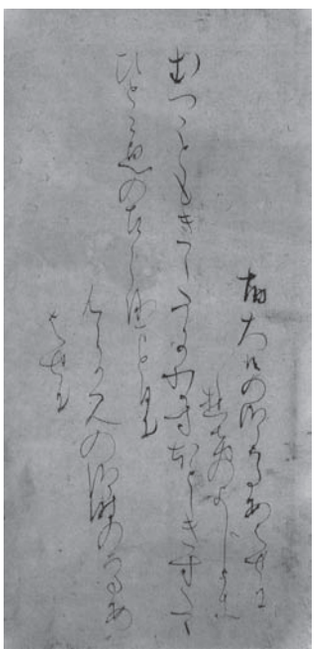
締切り　九月二十四日（必着）



簗瀬舟香書

〔古筆参考〕

香紙切



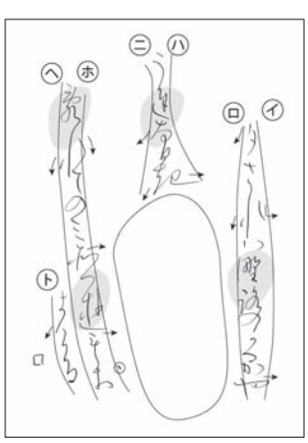
右大臣の御うたあはせに
ゆげのよしとき
むつごともきゝだにわかずほとゝぎすたゞ
ひとこゑのこころまどひに
むらかみの御時のうたあ
はせに

夕されば野路のかるかやうちなびき
乱れてのみぞ露も置きける

〔歌意〕夕方になると、野道の刈萱はなびき乱れ、ただもういっぱいに露が宿っている。

〔出典〕金槐和歌集

〔解説〕



・㋑と㋺、㋑と㋩、㋺と㋭、それぞれ呼応。
・●密の動き、行のふくらみ、揺れ↙の方向、◯余白（間）大切。

◆10月課題予告

木の葉散り秋も暮れにし片岡の
さびしき森に冬は来にけり

実用文のページ

締切り　9月24日（必着）

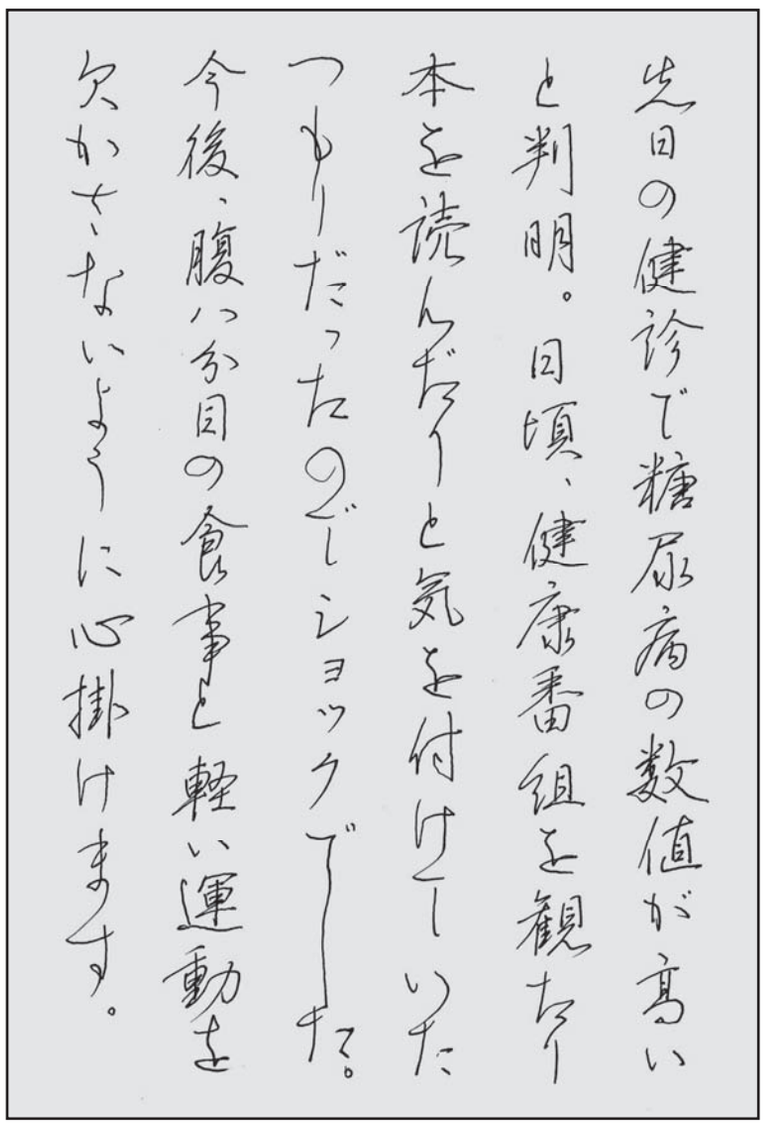
先日の健診で糖尿病の数値が高いと判明。日頃、健康番組を観たり本を読んだりと気を付けていたつもりだったのでショックでした。今後、腹八分目の食事と軽い運動を欠かさないように心掛けます。

作品の出し方

- ■新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- ■用紙＝はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- ■用具＝はがき、横書き課題ともに自由。（黒色に限る）
- ■両課題とも、書体変換は自由です。

はがき課題

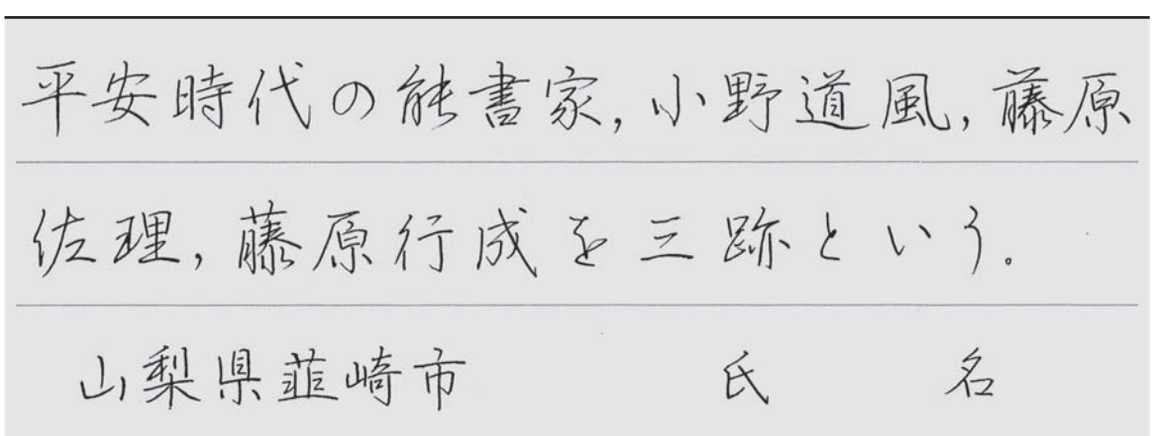
奥田三雲（おくだ みくも）書



※手本は水性ボールペン使用

横書き課題

尾郷翠光（おごう すいこう）書

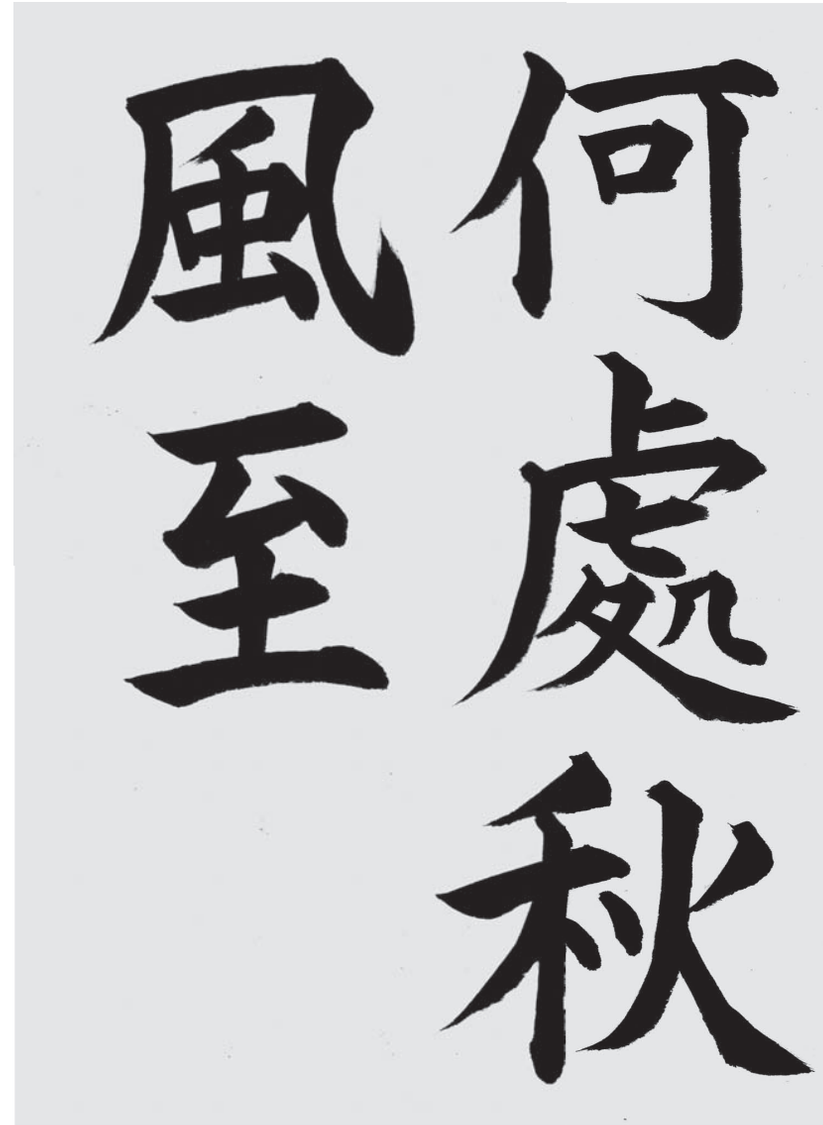


※手本はつけペン使用。　★三行目は、**指定の地名**と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り　9月24日（必着）

新入から1級まで（楷書）

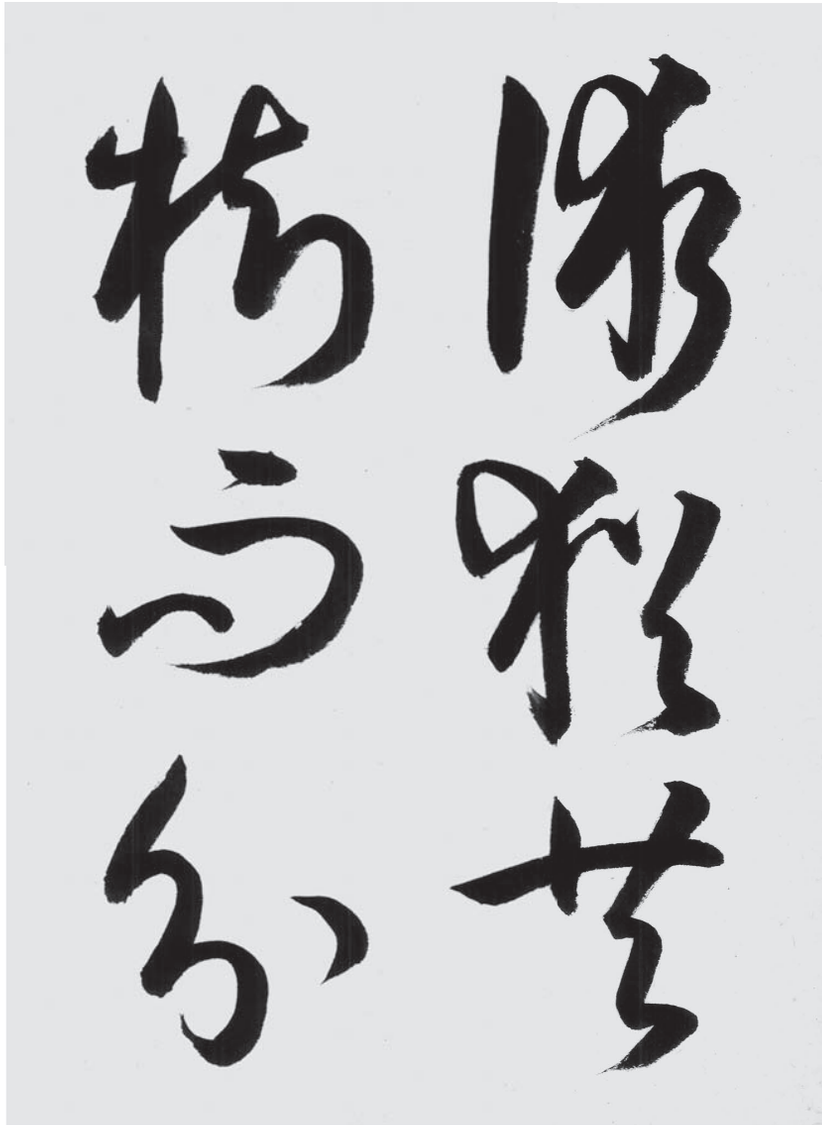


須田一葉書

〔読み〕何れの処よりか秋風至る

〔大意〕何処からか秋風の吹く季節になった。

準初段から師範まで



奥村暢之臨

術猶共樹而分

〔出典〕書譜（６８７）〔筆者〕孫過庭（６４８？～７０３？）

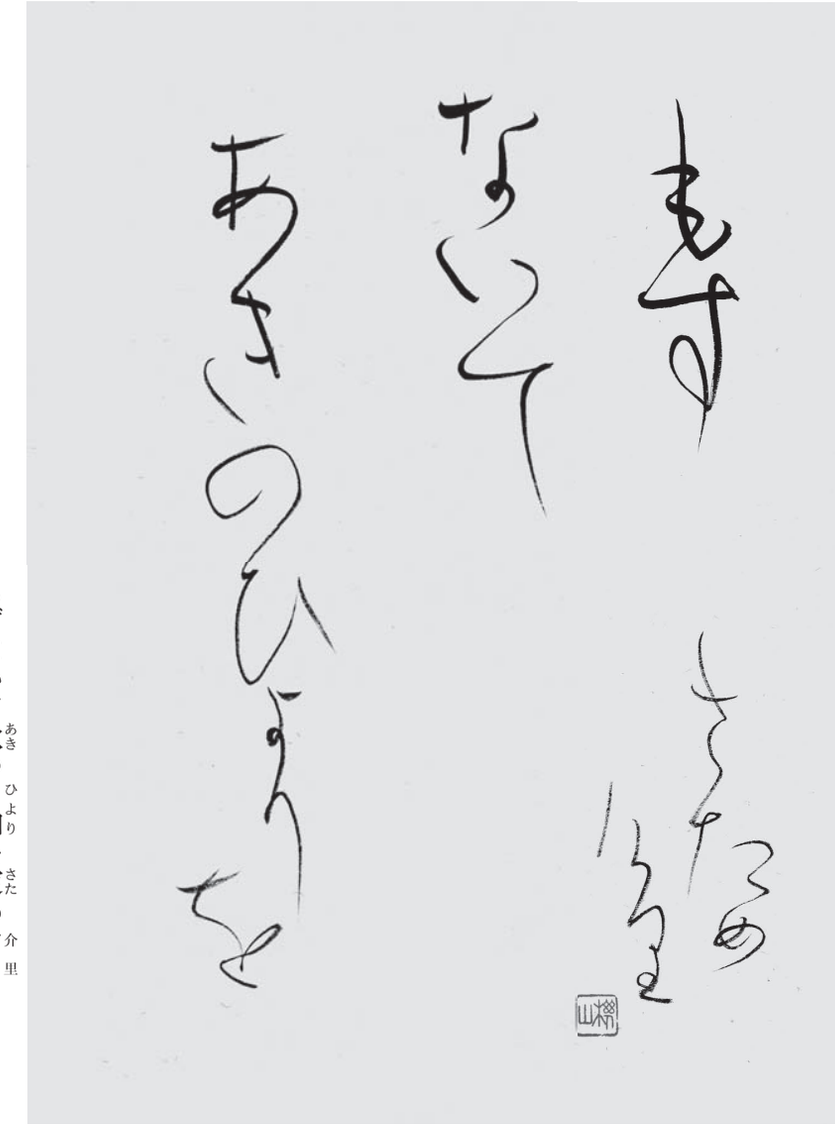
〔読み〕（転用の）術は、猶樹を共にして（條を）分かつが

一般部毛筆かな課題

締切り　9月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

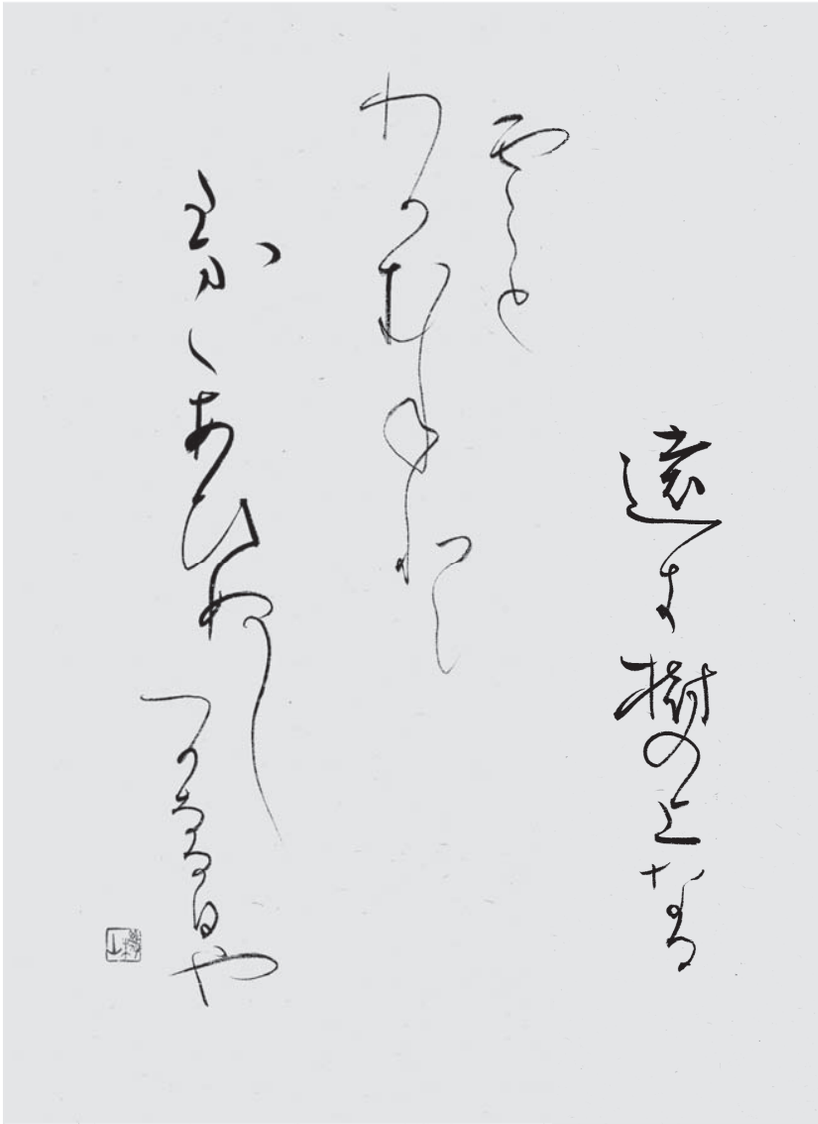


もずないて秋の日和を定めけり

〔出典〕正岡子規

〔句意〕おだやかな秋日和が、鵙の一声によって定まったという句。鵙のするどい声の響きが、晴れた秋天の高さを示している。

準初段から師範まで



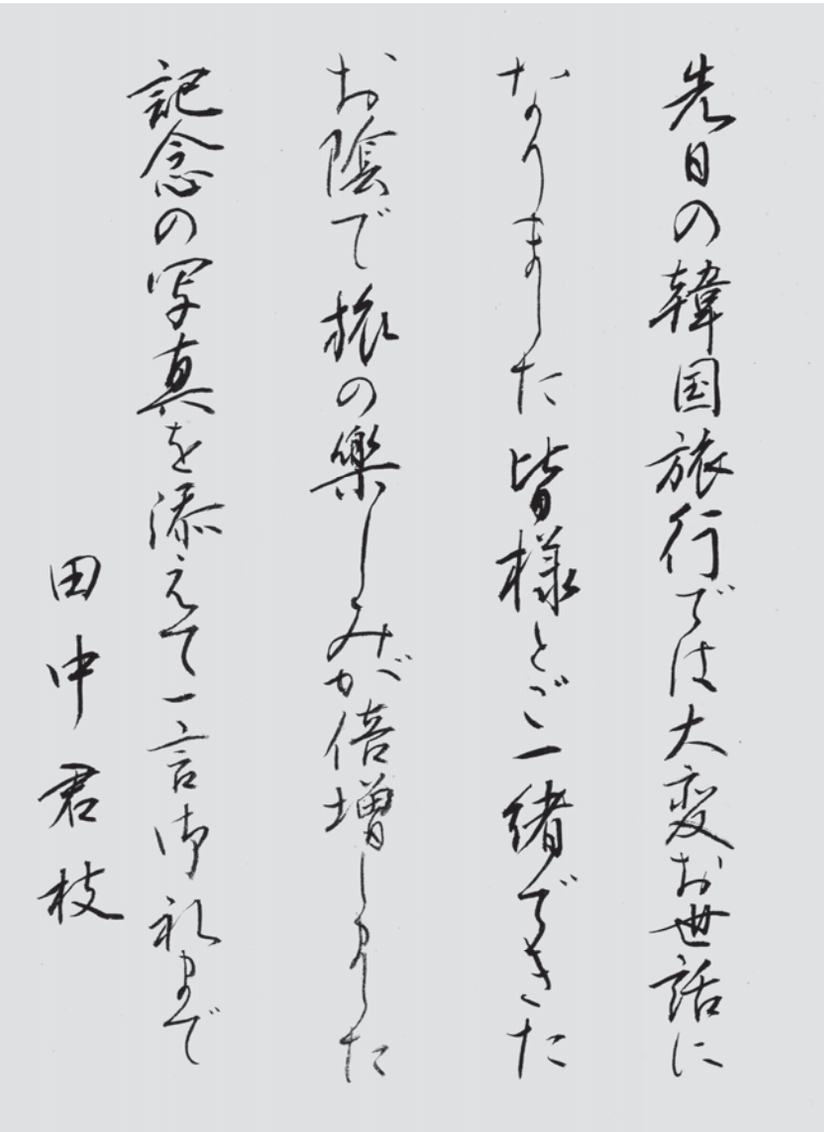
遠き樹の上なる雲とわが胸と
たまたまあひぬ静かなる日や

〔出典〕尾上柴舟

〔歌意〕遠い樹木の上に浮ぶ白い雲とわたしの胸の思いとが、ふと触れあった。ああ、静かな日であることよ。

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

一般部毛筆細字課題



半紙（３３４mm×２４０mm）　樋田玲華（といだれいか）書

〔条幅解説〕時恰（あたか）も大相撲、ボリュームのある作にしました。鈍さや重さを感じないようにしたつもりです。

先日の韓国旅行では大変お世話に
なりました　皆様とご一緒できた
お陰で旅の楽しみが倍増しました
記念の写真を添えて一言御礼まで
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■新入から師範まで、どなたでも出書できます。
■成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
■書体変換、変体仮名の交換は自由です。

一般部毛筆条幅課題

締切り　九月二十四日（必着）　**半　切**（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙（おぎたそうせん）書

盛年不重来（せいねんかさねてきたらず）

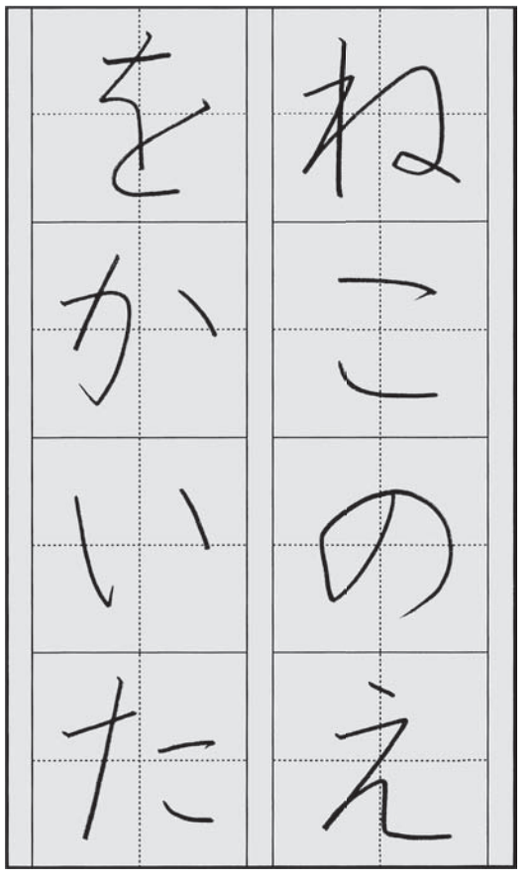
〔大意〕若くて力にあふれた時期は、人生において二度とやってこない。

初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

教育部硬筆課題（きょういくぶこうひつかだい）

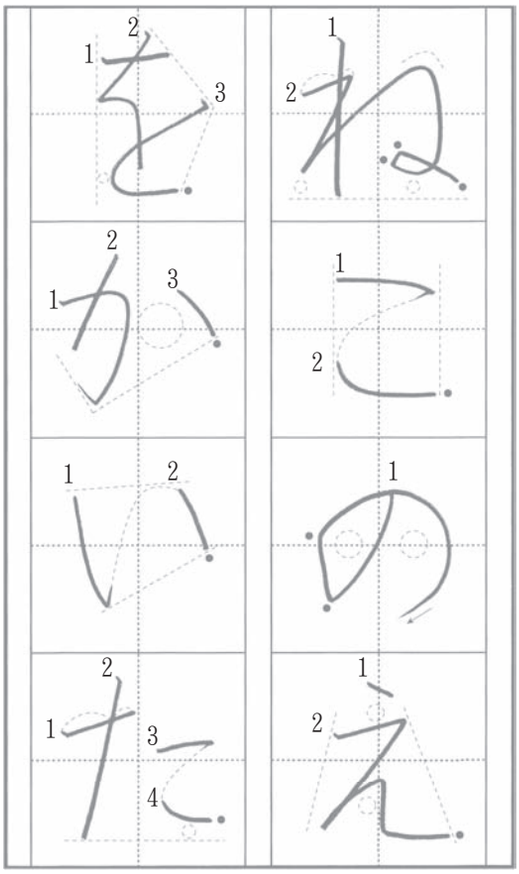
しめきり　9月24日（必着）

ようう年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング（なぞってかいてみよう）

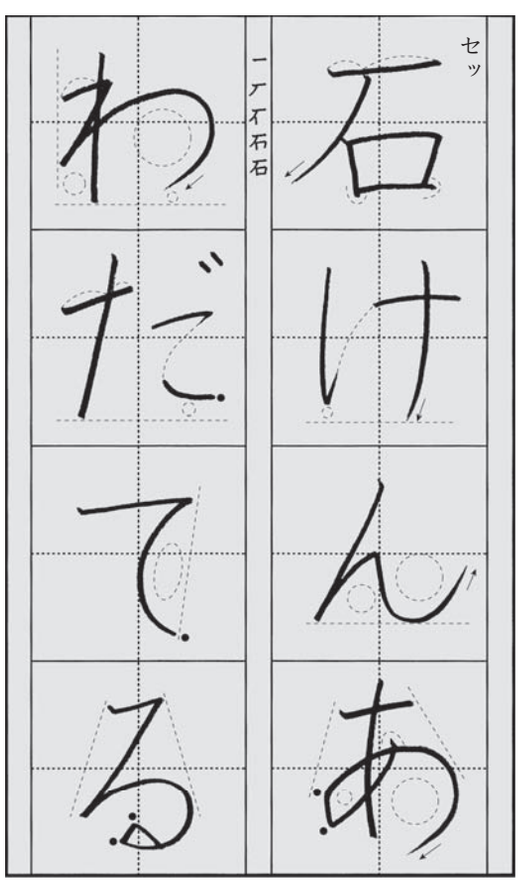


〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

小一年

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上



新入〜1級

幼年〜小三年まで　三宅容玉書（みやけようぎょく）

教育部硬筆課題（きょういくぶこうひつかだい）

しめきり　9月24日（必着）

小二年

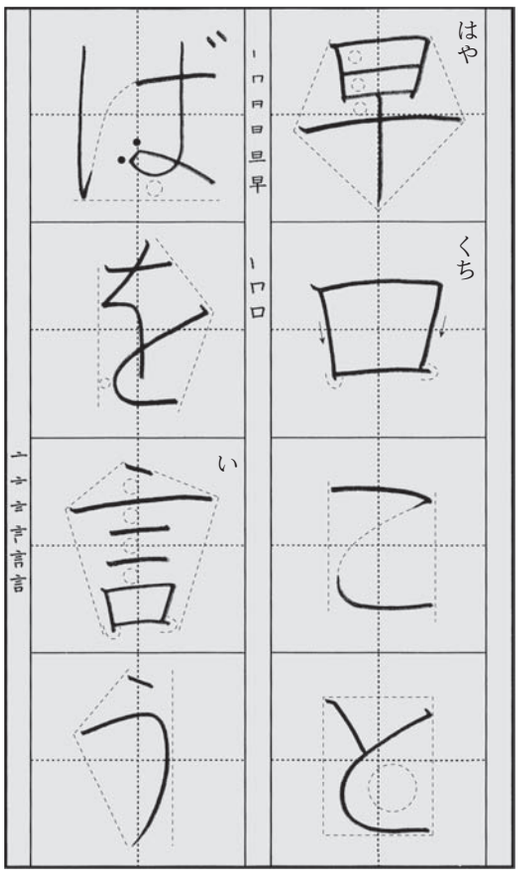
準初段以上

小三年

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上

〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）



新入～1級

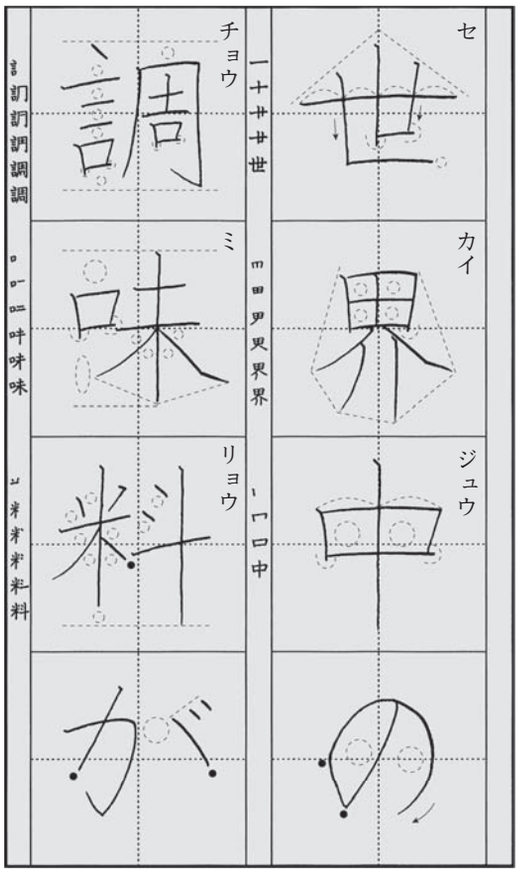
新入～1級

教育部硬筆課題

しめきり　9月24日（必着）

小四年

準初段以上



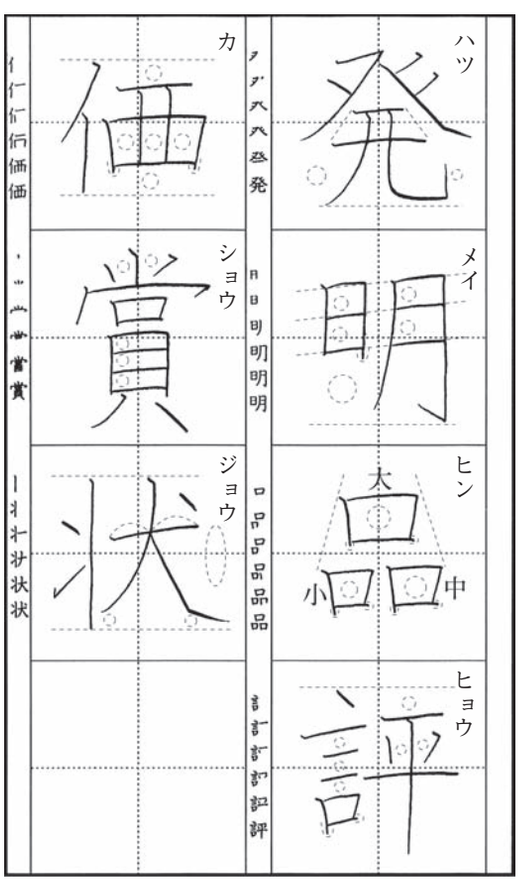
新入〜1級

〈用具〉自由（黒色に限る）

小五年

（全員）

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



解説（よく見て習いましょう）

小四年以上　岡嶋桂川書

教育部硬筆課題

しめきり　9月24日（必着）

小六年

お	城	の
閣	か	ら
絶	好	の
景	色	

（全員）

※景色（けしき）＝単語としてこのように読みます。

解説（よく見て習いましょう）

城（しろ）	天（テン）	守（シュ）
閣（カク）	絶（ゼッ）	好（コウ）
景（ケ）	色（シキ）	

〈用具〉自由（黒色に限る）

中一年（行書）

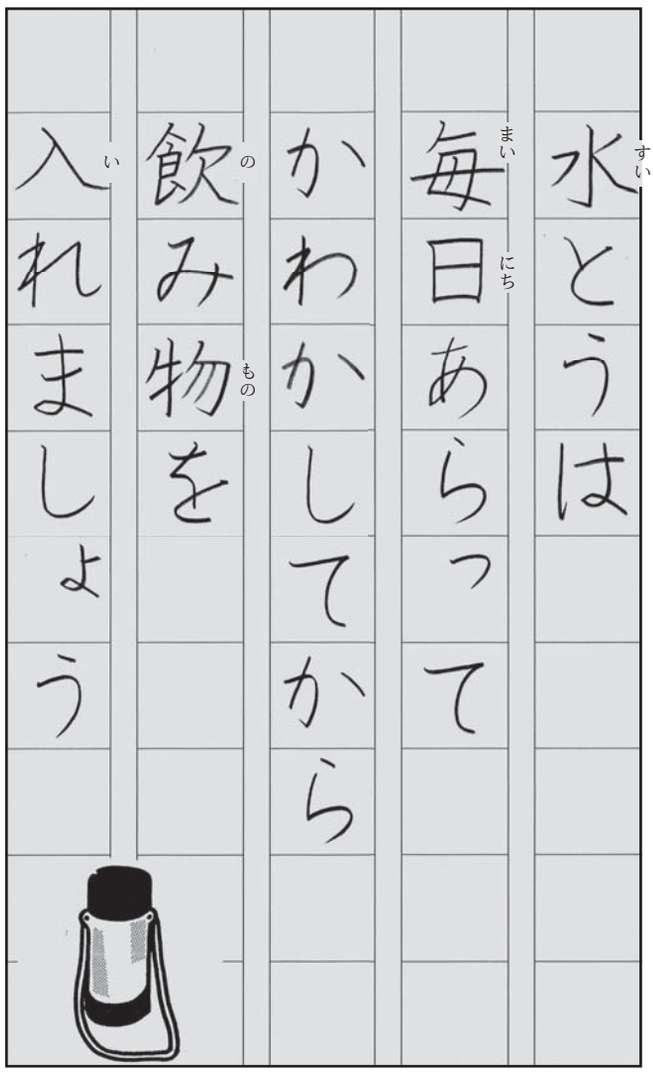
店	の	棚
に	並	ぶ
カ	ラ	フ
ル	な	輸
入	雑	貨

中二・三年（行書）

来	春	に
放	流	す
る	稚	魚
を	養	殖
し	ま	す

しめきり　９月２４日（必着）

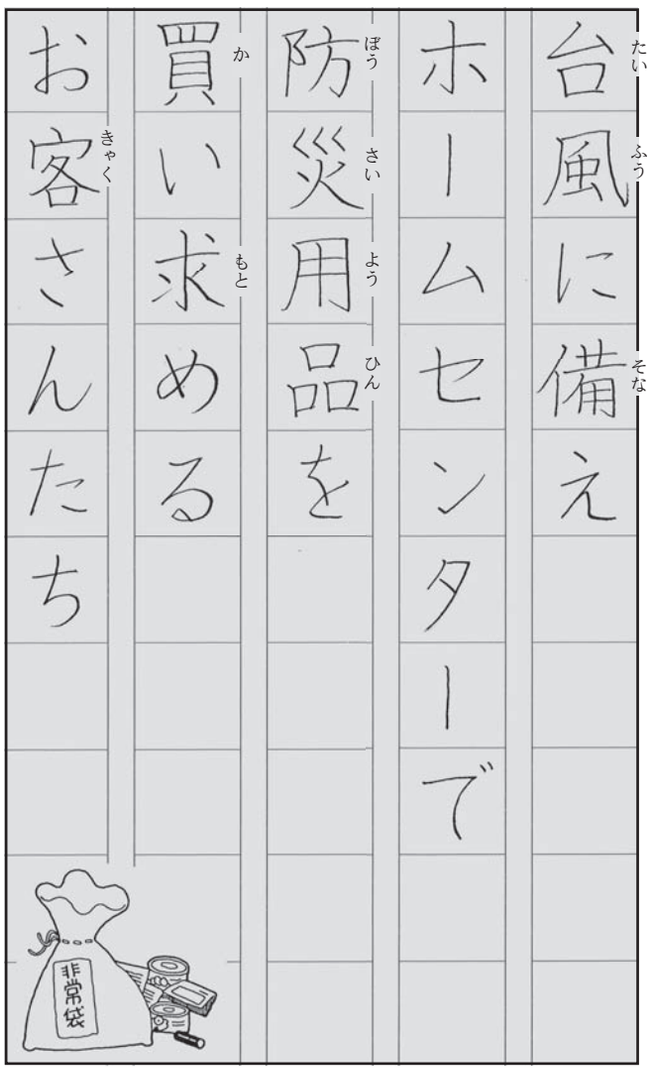
▼小三年以下の課題　新井龍峰（あらいりゅうほう）書



◎お手本はえんぴつ使用

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題　山本清流（やまもとせいりゅう）書



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
一、成績は評価により毎月変わります。
一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。**貼っていない方は新入とみなします。**

教育部毛筆課題

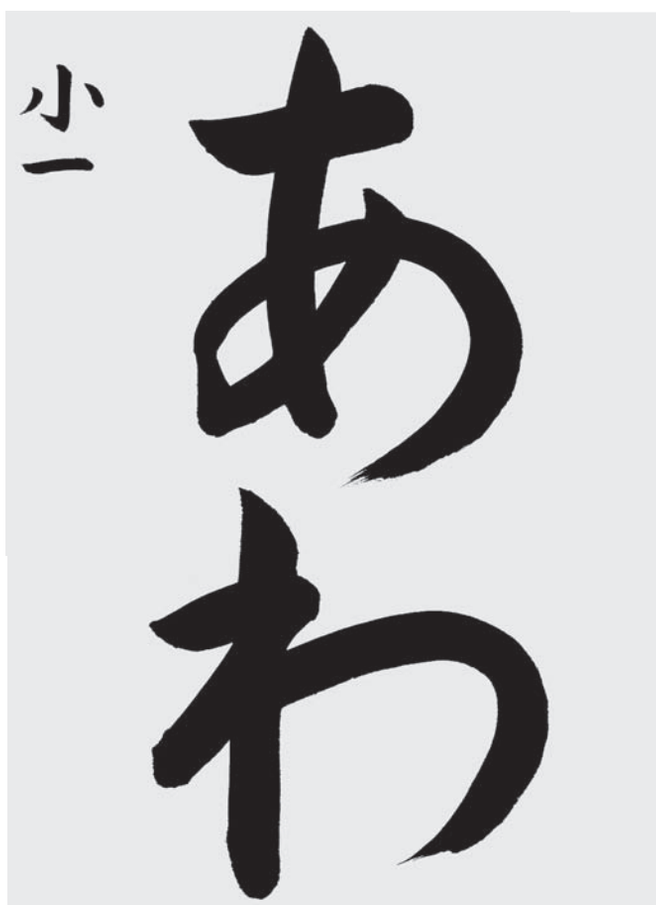
しめきり　９月２４日（必着）

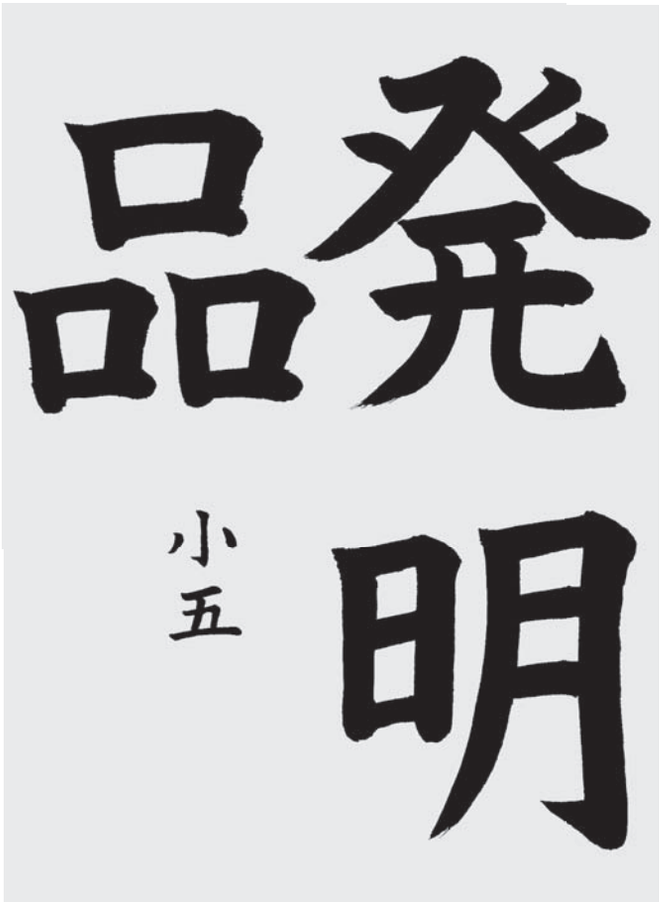
幼年～小二年　玉樹小華書

小二

さい

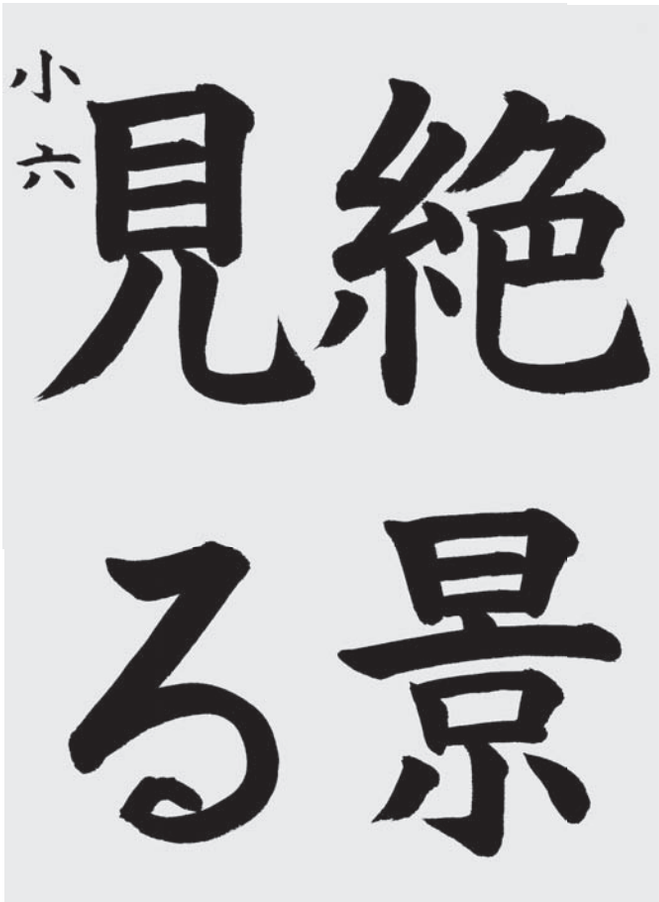
小一





小三〜小五年　水野香竹書

教育部毛筆課題

しめきり　９月２４日（必着）

小六～中二・三年　奥村暢之書